

織斑家の長男

夜神零

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

織斑千冬、織斑一夏の兄のお話し。

タグは随時追加。

目次

プログラグ

1

プロローグ

『…次のニュースです。日本で世界初の男性IS操縦者が発見されました。男性の名前は織斑一夏です。彼はあの織斑千冬の弟で——』

三日前からだったか、ISを起動させたという報道が出てからというものニュースを見るたびに愚弟の顔と名前を毎日の様に見るようになったのは。

なんでもあの阿呆は藍越学園とIS学園の試験場所を間違えるだけに飽きたらず、そこに有った試験用のISに触れてしまい、更には起動させやがった。

その所為で世界各国で『他にISを操縦できる男性は居ないのか?』と連日、各々の国で所有しているISに触らせ次なる男性操縦者を探しているらしい。

まあ、これは恐らくIS登場に寄つて地位が下がりまくつてる男性の立場を少しでも良くしたいという考えもあるんだろうが……

一番の理由は好きに研究出来る人間を探しているんだろうな。
実験材料

報道にも有った様に、織斑一夏は織斑千冬の弟だ。

織斑千冬と言えば今の世界で知らない人間は居ないだろうな。なにせ第一回IS世界大会モンドグロツソ初代優勝者として有名な世界最強なのだから。
ブリュンヒルデ

そんな人物の身内を国や一研究者が『解剖研究させてくれ』なんて、口が裂けても言えないだろう。

言ってしまうえば権力は無くとも影響力のある彼女の言葉だ。

国が言えれば世界各国から非難されるのは想像に難くない。一研究者が言えれば良くて解雇、最悪闇の中で始末されるのがオチだからな。

だがこれが何の後ろ盾もない一民間人だった場合は話しが変わってくる。

一民間人が相手ならば真相をひた隠しにした上で誘拐する事など容易い。少なくとも俺ならそうする。

だがハッキリ言ってしまうえばI Sを起動させることが出来る男性は他に存在しない。

何故なら創り手がそう断言したのだから。

だから……

「無駄な努力……ってやつだな。」

「どつたの？いきなり。」

「いや、其々の胸の内は知らんが他にI Sを起動出来る男なんて居ないのに何してんだか……ってな。」

「まあね。大体今世の中に出回ってるI Sだって東さんがうっかりロック掛けるの忘れて世の中に出しちゃったってだけの奴だしね。」

そう。今現在世の中に出回ってるＩＳは女性にしか起動する事が出来ない。それは何故か。ＩＳの開発者たる東が男性に対して起動出来ない様に制限ロックを掛けているからだ。

ならば何故男性に対して制限を掛けたのか。

真相としては何とも単純。最初にＩＳを発表した際に散々『中学生の戯言だ』『出来る訳がない』など馬鹿にしておきながら、その中から自分たちにも製作可能且つ利用出来るものを如何にも自分たちが創ったとばかりに発表したのが腐男った老害共性だったからだ。

それに怒りを覚えた東がＩＳコアを作る段階で男性に対して制限を掛けたのが男性がＩＳを起動出来ない理由だ。

因みに先程東が言っていたミスが女性に対する制限の話した。

本当なら東は女性に対しても制限を掛けるつもりだったらしいが、『東と千冬自分がＩＳを起動出来る』という設定が大雑把過ぎた為に起動出来る対象が『女性』まで広がってしまった。そうゆう話だ。

だがこれでは今現在ＩＳを起動出来ない女性はどうなるのか？

それは言ってしまうえば『東と千冬』この二人から歳が離れすぎている。ただそれだけだ。

それだけか？と思うかもしれないが考えてほしい。

ISを起動出来ない女性の年齢層を。明らかに二人より大分年上の女性しか居ないではないか。

ならば下はどうなるんだ？という疑問だが。これに対しても根拠はある。

ISコアは疑似AIとでも呼べば良いのか、何と呼べば良いのか解らないが。とにかく学習能力がある。

そしてISコアは人間ではなく機械だ。

機械ならば人間だと忘れてしまいうる昔の事も直ぐに思い出す…この言い方は違うか。

機械だから探し出すか？まあなんでもいい。

とにかく機械だからな。人間では忘れている…イカン、ループしてる。

とにかくISには昔の情報がいっぱい記憶されている。その中には最初の起動実験のデータ。つまり昔の千冬や東。若かりし頃の14歳前後データが残ってる訳だ。

そのデータが残ってる故に起動出来るのだろう。

ならば今回男性である『織斑一夏』が何故ISを起動出来たのか。

これもまた単純。東が制限を解除したからだ。

何故解除したのかは…知らん。興味もない。ただ他人に興味のない上に認識できて

る男性が俺と愚弟ぐらいしかいない束の事だ。恐らく制限が解除されているのも俺と愚弟の分ぐらいだろう。

ただ、I S コアの制限を解除するには直接コアに触れなければならない事から今回織斑^{あの馬夏}一夏が動かししたI S は本来この世界に出回っていないコアである事は確かである。

そんな事をして世界にばれたらどうするつもりなのか。

……ん？これはI S コアか？No. は……新しいな。

……つまりI S コアの番号ごと取り替えてきたのか。

これ以上面倒事を増やすなど一週間前に散々言ったハズなんだがな……

「あつくん？どつたの〜？」

「束……これはなんだ？」

「え……あ……あああああああつ!!」

「面倒事を増やすなど……前に言つたばかりだよな？ん？」

「は、はは……」

「どうやらまだ仕置きが足りない様だな。束えええつ!!」

「ぐ、ごめんなさ〜い!!」

ちつ！逃がすか！今度は説教6時間じや許さんぞ！